

牛飼いの道まっすぐ

難波 陽希さん（才倉）

「牛でやっていきたいんです」。そう話す難波さんは、黒毛和牛の繁殖経営に本格的に挑戦している。小さい時から祖母について牛飼いを手伝っていた。牛が好きで高校は畜産科に通い、島根県立農林大に進学しさらに学びを深めた。

現在は家族とともに、水稲と繁殖牛を組み合わせた農業



難波陽希さん

明日を拓く



を行い、稲わらやWCS、牧草を活用しながら飼料の自給化を進めている。

堆肥は田んぼへ戻し、米づくりに生かす。「米と牛を循環させることで経費を抑え、無理のない形で経営を続けていこうと考えています」「堆肥を入れた田んぼは、土も良くなります。やっぱり循環は大事だと思えます」と、手応えも口にする。

牛の管理は、毎日の積み重ねだ。餌やりや健康管理に加え、出産への対応もあり、気が抜ける日は少ない。「朝も早し、夜も見に行くことがあります。出産が近いと特に気になります」。それでも「子牛が無事に生まれて、元気に立ち上がったときはほっとします。あの瞬間はやっぱりうれしいですね」と笑顔を見せる。「大



変ですけど、牛を見ているのが好きなんですよ」と、牛づくりのやりがいをつつた。将来の目標は、繁殖牛を50頭まで増やすことだ。「そこまっていけば、牛だけでやっていける規模になると思うんです。少しづつでも増やしていきたい」。ただ、そのためには新たな牛舎の整備が欠かせない。候補地はあるものの計画は思

うように進んでいない。「牛舎ができれば頭数を増やせるんですが、臭いや環境面への心配があり、周囲の理解を得ながら進めていこうと思います」。言葉を選びながら話した。

規模拡大には設備投資も必要になる。堆肥を運ぶダンブやバキュームカー、削蹄のための設備など、頭数が増えるほど機械の必要性も高まる。

高齢化が進み「町内ではやめる人が少しずつ出てきています。このままだと頭数も減っていくと思う」。そうした状況の中で、「自分ができるところまでやって、少しでも地域の牛を残していきたい」と前を向く。

米と牛を組み合わせた循環型農業を軸に、「地域の中で続けていける形をつくりたいですね」と語る。若い担い手の一歩が、地域農業の将来につながっていくことが期待される。

今日の表紙写真



20歳という若さで畜産に臨んでいる姿を見ただけでも感心してしまいました。生き物を生業にすること自体が大変なのに、陽希さんは事業の拡大を目指しています。家族での経営は、一般事業とは違う良さや不都合もありますが、希望が叶うように、私たちも応援していきたいものです。

募集中

「明日を拓く」で取り上げてほしい個人・団体などの情報をお寄せください。議会広報委員が取材に伺います。

《応募先》飯南町議会事務局
0854-76-2190



議会広報常任委員会

委員長:安部 丘 副委員長:高橋 徹 委員:伊藤 好晴 安部 誠也 平石 玲児 岸 光研

飯南町議会事務局 島根県飯石郡飯南町下赤名880番地 TEL0854-76-2190 FAX0854-76-2867